

ご案内

1. 会期・会場

会期 2010年8月23日(月)・24日(火)

会場 かでる2・7(北海道立道民活動センター)

710 会議室(23日:一般研究発表、招待講演、シンポジウム、総会)

320 会議室(23日:理事会等)

820 研修室(24日:一般研究発表、シンポジウム)

住所 札幌市中央区北2条西7丁目

アクセス

JR 線

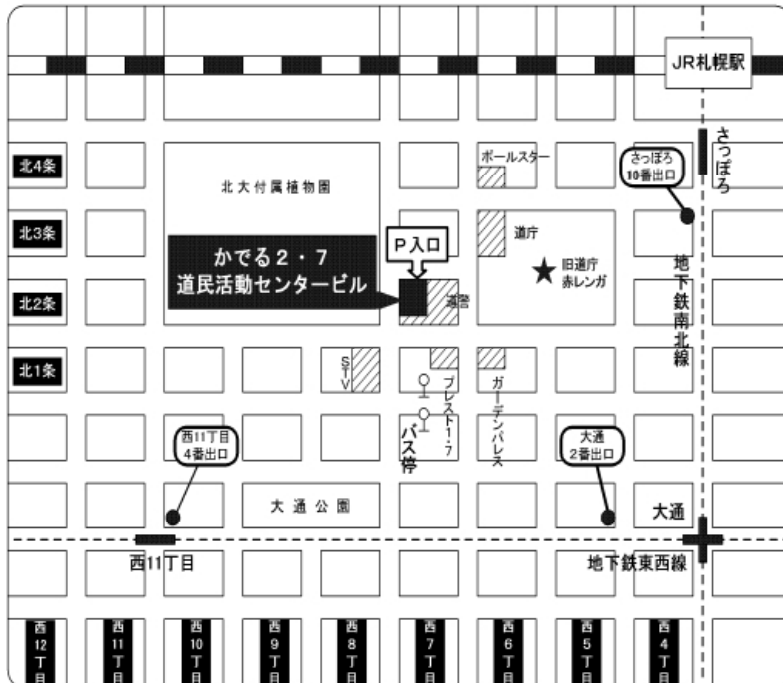
札幌駅から徒歩で約10分

地下鉄

さっぽろ駅 10番出口から徒歩で約8分

大通駅 2番出口から徒歩で約10分

西11丁目駅 4番出口から徒歩で約10分



2. 大会日程

第1日目 8月23日(月)

受付	9:00～
一般研究発表 I	9:30～10:30
- 10分休憩 -	
シンポジウム 1	10:40～12:10
昼食・理事会	12:10～13:40
招待講演	13:40～15:10
- 10分休憩 -	
一般研究発表 II	15:20～16:00
- 10分休憩 -	
シンポジウム 2	16:10～17:40
- 10分休憩 -	
総会	17:50～18:50
懇親会	19:30～

第1日目の一般研究発表・招待講演・シンポジウム・総会は 710 会議室で、理事会は 320 会議室でおこなわれます。

第2日目 8月24日(火)

受付	9:00～
一般研究発表 III	9:30～10:30
- 10分休憩 -	
シンポジウム3	10:40～12:10
昼食	12:10～13:10
一般研究発表 IV	13:10～14:10
- 10分休憩 -	
一般研究発表 V	14:20～15:00

第2日目の一般研究発表・シンポジウムは 820 研修室でおこなわれます。第1日目と部屋が異なりますのでご注意ください。

3. 大会参加者へのご案内

◆大会参加の申し込み

参加を予定されている方で参加費を未納の方は、お早めのお振り込みをお願いいたします。

		参加のみ*	発表する
会 員	一般	6,000 円	6,000 円
	学生	3,000 円	3,000 円
非会員 (臨時会員)	一般	6,000 円	7,000 円
	学生	3,000 円	4,000 円

追加論文集費	1 部 3,000 円
懇親会費	5,000 円

* 連名発表者は「参加のみ」として扱い、参加費はそれに準じます。

◆受付

大会会期中は、参加章を胸につけていただきます。参加章の該当欄に氏名・所属をご記入ください。

◆研究論文集

発表論文集は、会員および参加者全員に配布しましたが、別途購入される方は、受付で販売いたします。
1部3,000円です。

◆一般研究発表（第1日目：710会議室、第2日目：820研修室）

- ・発表は口頭発表形式で行います。1発表あたり20分です（発表時間15分、質疑5分）。
- ・各発表には座長がつかます。座長はコメンテーターも兼ねます。
- ・筆頭発表者になるのは大会期間中1回に限ります。連名発表についてはこの限りではありません。
- ・発表では液晶プロジェクタにPCをつないでご使用いただけます。WindowsPC（Office 2007搭載）とMacPC（Office X搭載）を1台ずつ用意しておく他に、ご持参のPCも接続いただけます。
- ・大会が準備するPCにデータを入れる方は、休憩時などに演台付近のスタッフに声をおかけください。
- ・発表資料を配付される方は、会場係にお渡し下さい。資料は40部程度ご用意ください。

◆招待講演（710会議室）

VVIQの開発者としても有名なD. F. Marks博士による講演が、第1日目の13:40から開催されます。

◆シンポジウム（第1日目：710会議室、第2日目：820研修室）

若手研究者を中心とした3つのシンポジウムが、大会2日間に渡って開催されます。

◆理事会（320会議室）

第1日目に、理事会が12:10から開催されます。

◆総会（710会議室）

第1日目に、総会が17:50から開催されます。

一般研究発表・シンポジウム・招待講演

第1日目 8月23日(月) 710会議室

一般研究発表 I 9:30~10:30

座長

北海道大学大学院文学研究科

大藤弘典

1. 視覚表象の符号化に要する情報負荷量が反復の見落とし現象に及ぼす影響

東北大学大学院文学研究科・日本学術振興会

高橋純一

立教大学現代心理学部

日高聡太

東北大学大学院文学研究科・東北大学電気通信研究所

寺本渉

東北大学大学院文学研究科

行場次朗

2. 大学生 eidetiker における認知的特性について

—視空間短期記憶課題を用いて—

北海道大学大学院文学研究科

新原理津子

文教大学人間科学部

岡田 齊

3. 空想傾向(Fantasy Proneness)の肯定的機能に関する研究

—内的統制およびフロー体験との関連性—

岩手大学大学院人文社会科学部

山崎有望

岩手大学人文社会科学部

松岡和生

シンポジウム I 10:40~12:10

視覚イメージの生成過程に関する新たな視点

司会者

北海道大学大学院文学研究科

西原進吉

話題提供者

北海道大学大学院教育学研究科

山崎圭子

話題提供者

広島大学大学院教育学研究科

高村真広

話題提供者・企画者

北海道大学大学院文学研究科

廣瀬健司

指定討論者

岩手大学

川原正広

理事会 (320 会議室) 12:10~13:40

昼食

招待講演 13:40~15:10 〈日本認定心理士会協賛〉

Mental imagery: Pure and applied

講演者	Professor of Psychology, City University, London; Editor, Journal of Health Psychology	David F. Marks
司会者	山形大学地域教育文化学部	畠山孝男
通訳	北海道大学大学院文学研究科	上宮愛

一般研究発表 II 15:20~16:00

座長 文教大学人間科学部 大木桃代

4. 死のイメージに関する発達の研究
—小学生, 中学生, 大学生の比較を通して—
武庫川女子大学大学院文学研究科 金谷友梨亜
山形大学地域教育文化学部 畠山孝男
5. 対象語の感情的評価とイメージの鮮明性, 空想傾向との関連
—「感情イメージ」の有意義性の検討—
文教大学人間科学部 鈴木賢男
富山国際大学子ども育成学部 大石昂
千葉県健康福祉部児童家庭課 松野真
駒澤大学文学部 堀内正彦
慶應義塾大学先導研究センター・ふたご行動発達研究センター 鈴木国威

シンポジウム2 16:10~17:40

イメージ研究と感情研究の接点

—ネガティブ感情への対処を中心に—

司会者・企画者	北海道教育大学教育学部旭川校	宮崎拓弥
話題提供者	九州大学人間環境学研究院	井隼経子
話題提供者・企画者	北海道大学大学院文学研究科	本山宏希
話題提供者・企画者	北海道大学大学院文学研究科	本間美紀
指定討論者	文教大学人間科学部	岡田斉

総会 17:50~18:50

第2日目 8月24日(火) 820会議室

一般研究発表 III 9:30~10:30

- | | | |
|----|--|----------------|
| 座長 | 関西福祉科学大学健康福祉学部 | 八田 武志 |
| 6. | 結果イメージが動作計画過程に及ぼす効果
—ダーツ投げ課題における着矢点の変化—
北海道大学大学院文学研究科・日本学術振興会
北海道大学大学院文学研究科 | 今井 史
菱谷 晋介 |
| 7. | イメージ操作能力と運動システムの関係性
—タッピングパターンが珠算式暗算課題に及ぼす効果—
北海道大学大学院文学研究科
北海道大学大学院文学研究科 | 松本 信吾
菱谷 晋介 |
| 8. | 記憶の錯誤における運動イメージの影響
関西福祉科学大学健康福祉学部 | 八田 武志 |

シンポジウム3 10:40~12:10

運動イメージの機能的役割

- | | | |
|-----------|-----------------------|-------|
| 司会者・企画者 | 北海道大学大学院文学研究科 | 森本 琢 |
| 企画者 | 北海道大学大学院文学研究科・日本学術振興会 | 今井 史 |
| 企画者 | 北海道大学大学院文学研究科 | 松本 信吾 |
| 話題提供者・企画者 | 北海道大学大学院文学研究科 | 藤木 晶子 |
| 話題提供者 | 愛知東邦大学人間学部 | 長谷川 望 |
| 話題提供者 | ACTPACO おもちゃとりハビリ研究所 | 松田 均 |
| 指定討論者 | 岩手大学人文社会科学部 | 松岡 和生 |

昼食 12:10~13:10

一般研究発表 IV 13:10～14:10

座長 西南学院大学人間科学部

中村奈良江

9. 視覚的イメージスタイル質問紙作成の試み

岩手大学
岩手大学人文社会科学部

川原正広
松岡和生

10. メンタルローテーション能力に寄与する遺伝と環境の影響

—双生児法を用いて—

慶應義塾大学先導研究センター・ふたご行動発達研究センター

鈴木国威

11. 多義図形の再解釈における手指運動の役割

東京大学大学院教育学研究科

武長龍樹

一般研究発表 V 14:20～15:00

座長 東洋大学総合情報学部

石原次郎

12. 着衣失行症例に対するイメージの解釈

—イメージの問題に対する運動介入の試み—

学校法人弘前城東学園 弘前ホスピタリティーアカデミー
青森保健生活協同組合 あおもり協立病院

成田秀美
山田友美

13. 脳内ボディ・イメージと現実の身体動作との乖離をいかにして埋めるか

—舞踊の稽古場における鏡の功罪—

日本大学経済学部

安田 静